

協議事項 1 天神社の総合調査について

1 現在の進捗状況と今後のスケジュール

	調査員	調査 協力員	文審	事務局	スケジュール	備 考
調査内容の検討						第1回会議
調査員等の依頼（役割分担）			△	○	H30年10月	
文化財等の確認	○	○		○	必要に応じて随時	
調査・研究の方向性	○	⇔	○		H30年10・11月	研究素材の洗い出し等
個別文化財の調査・研究						
調査・研究	○	⇔			～H31年2月	役割分担により
中間報告・調整	○		○		1月	個別に実施
価値付け	○		○		1月	個別に実施
関連文化財群のまとめ						
価値付け・まとめ	○				2月	第2回会議
個別成果の確認		○	○	○	2月	第2回会議
方向性の検討			○		2月	第2回会議
追加調査等	○	⇔			2～4月	
内容確認等			○		4・5月	
総合調査のまとめ						
中間報告1	○		○	○	R1年5月	文審で確認
一次資料の確認・とりまとめ				○	～9月	
追加調査等	○	○	△	○	8・9月	
中間まとめ	○	○		○	9月	第3回会議
個別成果の精査	○	⇔			9～11月	
確認・とりまとめ				○	～11月	
中間報告2	○		○	○	11月	本日
委員会内調整	○	○		○	12月	第4回会議
追加調査等	○	⇔		○	12～1月	
ストーリー化	○	○	○	○	1～2月	第5回会議・文審
各論原稿とりまとめ	○	○		○	2月	
事務局草稿作成	△	△		○	2～4月	
確認精査	○	○	○	○	5月	文審
原稿調整	○	○		○	6～7月	
校正	○	○		○	7～9月	
刊行					～12月	

2 新たな調査成果

建造物

9月15日（日）鰻絵の調査

前面の額をはずし、鰻絵の全体を確認（氏子諸氏の協力を得る）。
銘は見つからず。

* 終了後、調査参加の委員（鈴木、廣瀬、石田、高橋、事務局）による打ち合わせ実施。

石造物

11月11日（月） 石材鑑定

湯沢石材店の協力を得て、石造物の材料としての名前を調べる。
石の加工方法で、施工の新旧がわかるなどの新知見あり。

3 今後の調査等について

- ◆ 主な追加調査項目 （案・予定）

建造物

鰻絵の写真撮影・実測を行う。

* 12月9日（月）10時から 予定

鎮守の森

樹種などの調査。周囲の屋敷林との比較など。

* 12月9日（月）13時30分から 予定

有形文化財

本殿に祀られている菅原道真像、稻荷像の来歴等の調査
奉納額・絵馬のリスト作成

全体

各文化財の計測・写真撮影

その他

過去の調査歴の調査（村田朝雄氏資料等）

周辺地域との関連性の調査

練馬区（特に大泉地区）及び周辺地域の調査

妙福寺・白子川・屋敷林

立地・来歴の調査（下保谷絵図等地図資料） 等

現在の活用の状況把握 等

4 天神社総合調査報告書（案）

巻頭図版（カラー 口絵） <古地図、主な文化財の写真 等>

はじめに

例言 <調査協力者の記載含む>

第1章 調査に至る経緯

第1節 天神社総合調査の目的 事務局

調査の目的

文化財を総合的に捉え、保護するためのモデルケースをつくること。

天神社の保有する文化財の記録及び価値づけ

関連文化財群としての価値づけ

地域における天神社の歴史的・社会的価値づけ

天神社をめぐるストーリーを用いた広報・活用

調査に至る経緯

過去の調査歴 村田朝雄氏の調査など

文化財保護審議会での審議

天神社総合調査会議

第2節 天神社総合調査の方法 事務局

委員名簿

調査方法

文化財を点捉えず、線や重層的な面として捉え＝ 関連文化財群、それらをつなぐストーリーをみいだす。

市民調査員制度を活用する。

調査経過

個別調査

天神社総合調査会議

第2章 天神社 高橋・事務局・(馬場)

第1節 天神社の成り立ち

1. 地域の成り立ち

地理的環境：地下水（宙水）と白子川

歴史的環境：旧石器時代・縄文時代（北宮ノ脇、中荒屋敷遺跡）

下保谷村の成立＝小樽村（練馬区大泉）からの移住

地名 荒屋敷（＝新屋敷？）など、母村と関連（付編2②）

家屋の立地 白子川の段丘上＝したみち通り沿い

近郊農村としての発展

生業

鉄道の開通（大正4年）

村から町、市へ（保谷町：昭和15年 保谷市：昭和42年）

2. 下保谷村の信仰

日蓮宗への改宗

板碑は語る

題目板碑と梵字板碑

→ 題目板碑：下保谷地域の特徴＝日蓮宗の信仰

経塚伝説

経典を埋めた？＝鐘塚

村、宗教の結界（境塚）？＝南入経塚

3. 番神様から天神社へ

三十番神信仰の盛衰

本山 妙福寺の三十番神堂

明治時代の廃仏毀釈と福泉寺への避難、新たなご神体

地域の鎮守として

一村一社＊下保谷村の一社となる

後現稲荷、富岡稲荷など各集落の信仰対象を合祀

現代でも地域の鎮守として愛される→新たな役割を担う？

第2節 鎮守の森

1. 敷地の変遷

2. 現在の植生

3. 「鎮守の森」と「屋敷林」の新たな役割

緑地の保全

コミュニティスペースの役割

第3章 各論

第1節 天神社と下保谷の講

高橋・石井・都築

1. 下保谷の講

2. 天神社に残る講に関する文化財

奉納額

伊勢講 →弘化4年 蓮見家文書との関係

御岳講

石造物

題目講 →題目塔（市指定文化財45号）

三十番神 延宝4年（1676年）オビシヤの記録
＜高橋文太郎『武蔵保谷村郷土資料』＞

3. 現在も続く講と地域の紐帯

現存する講

第2節 天神社と三十番神信仰 高橋・石井・事務局

1. 三十番神信仰
2. 天神社に残されている三十番神勧請札
3. 福泉寺に移された三十番神神像（市指定文化財30号）
4. 三十番神に替わり祀られた神

菅原道真石像（市指定文化財42号）

稲荷像

第3節 天神社の歴史的建造物 鈴木

（0. 現況配置図＊建造物）

1. 歴史的建造物各論
 - 「（蓮見家文章） 式間四面堂」
 - 本殿
 - 拝殿（市指定文化財50号）
 - （拝殿手前の）小祠
 - 手水舎
 - 三十番神堂
 - 富岡稲荷社
 - 後現稲荷社
 - 天神社鳥居
 - （富岡稲荷社）鳥居
 - 石垣

2. 歴史的建造物の配置の変遷

第4節 天神社の鰻絵 鈴木・事務局

1. 鰻絵について

2. 天神社の鰻絵

第5節 天神社の石造物 廣瀬

(0. 現況配置図*石造物)

1. 天神社の石造物について
2. 天神社 石刻銘文調査記録

第6節 天神社と保谷の民俗 石井

1. 天神社が所有する 絵馬
2. 保谷囃子 (市指定文化財 46 号)
(上保谷村*尉殿神社への奉納のお囃子→天神社の例大祭でも演奏) 田無ばやしと相対する形で旧保谷市域のお囃子になった?)

第7節 現代の天神社 高橋・事務局

1. 氏子の数と広がり
2. 天神社で行われる行事等
祭事
地域行事
その他 活動団体
3. 地域の中の天神社の役割

第4章 (総括) 天神社をめぐるストーリー 鈴木・事務局

(案) 日蓮の教えと生きる農村 暮らしを支えたみどりと水

参考文献

附編

1. 天神社が保有する文化財一覧表
2. 天神社に関連する文献調査 近辻・石田
 - ①天神社に関する蓮見家文書 (市指定文化財 48 号)
<個別読み下しはCD添付等を検討>
 - ②下保谷村の字と人名
3. 鰻絵3D計測データ
4. 用語集 (あるいは文中にコラム?) 各執筆者・事務局